

## きゅうりこれからの管理

1月に入り年明けからの晴天により生育状況も落ち着いてきました。長期予報では2月は例年並みとなっていますが、急な冷え込みや天候不順がくる可能性も十分考えられますので、管理の徹底を行っていきましょう。

### ①温湿度と生育

厳寒期は温度を十分に確保する必要がある。午前中のハウス蒸しこみによる温度確保が地温等の確保へとつながっていく。ただし、温度確保を行っても土壌中に水分・肥料がないと根から吸収するものがない。

また、午前中は換気を少し行いハウス内の空気の入替えを行なう。

- 温度不足 ⇒ 果実肥大及び生育が抑制される
- 湿度が多い ⇒ 葉からの蒸散量が減少する
- 地温が低い ⇒ 根からの水分・養分供給が抑制される
- 日照時間が少ない ⇒ 光合成が抑制され、養分供給が減少する

### ②促成及び半促成きゅうりについて

雌花開花位置・収穫位置が上がりカンザシ対策を行なう状況になっています。摘果及び遮光作業を行ない力枝を伸ばしていきましょう。逆にまだ力枝の伸びに勢いがある場合には、陽射の強い時間帯のみの遮光を行って下さい。夕方は少し冷やしてから閉め込みを行って下さい。

地温確保が低いと果実肥大・生育に影響が出ます。しっかりと確保するようにしましょう。

土壌中の肥料濃度が高すぎても力枝の伸びは抑制されます。葉色が濃くツヤがない場合は肥料を控えめにし状態を見ながら追肥を行ないましょう。

1日を通して晴天時での外気温が高く、ハウス内の温湿度が抜けきらない状態が出てくれば妻面の換気を考えて下さい。

灌水については日が長くなってきますので、徐々に増やしていきましょう。肥料切れをなくすためこまめに追肥を行って下さい。また、草勢維持の為葉面散布を行いましょう。

草勢維持対策 液 肥：アミハート 2～3リットル/10a

葉面散布：ベストⅡ 500～1000倍、パワフルグリーン2号 500～1000倍

### ③早熟きゅうりについて

定植前には定植後の活着のことを考え、十分地温と土壌水分を確保しましょう。特に切り上げから定植までの期間が長い方につきましては、注意してください。

定植後液肥をやっても葉色が乗りにくい場合や、芯の伸びが悪い方につきましては早めのベトナムマルチも考えて下さい。

親枝の雌花開花が早いようであれば側枝の発生を考え、摘果の徹底を行いましょう。また親枝の摘芯位置の検討をお願いします。

### ④病害虫について

つる枯れ病の発生を多く見かけるようになってきました。防除の際には葉量を増やし、しっかりと散布して下さい。

春先に向けた害虫対策として再度ハウス周辺及びハウス内の雑草対策を行って下さい。粘着板も粘着部分がないようであれば取替えを行って下さい。また、外からの飛び込み対策として設置枚数を増やすことも考えましょう。

光反射シート（タイベックシート）のハウス周辺設置も飛来防止対策に有効です。設置の検討をよろしくお願い致します。

徐々に加温機の稼働時間も短くなってきます。害虫ばかりではなく病気の予防対策も行なって下さい。薬剤のローテーション防除に努めましょう。

### 【黄化えそ病対策をしっかりと講じましょう】

黄化えそ病の発生は半促成への発生へとつながっています。まだ2月は外気温も低く外からの飛び込みはありませんが、3月に向けて徐々に飛び込みの可能性は高まってきます。ハウス内外の除草対策はしっかりと行っておきましょう。

発病株の早期発見・抜根を行う事により被害株の拡大はかなり抑えられます。ただし、いくら早期抜根を行ってもスリップスの防除ができていないといけません。スリップス防除もしっかりと行ないましょう。

**春先の害虫対策に向け、2月下旬には再度ハウス周辺及びハウス内の除草徹底を行うようにして下さい。**

## 果樹園の管理(2月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。2月の果樹園の管理は以下の通りです。

### 1.かんきつ類全般

#### 1)土壌改良

果実の品質向上、干害、寒害などの気象災害に強い樹にするため、土作りを行います。

①石灰類を投入し、土壌の酸性度を適正にします。(柑橘の目安：5.5～6.5)

②有機質投入により、土壌を柔らかくして、表層根を多くします。

(堆肥等を主体に、ばらまかずまとめて置きます。2 t以上/10 a)

#### 2)剪定、縮間伐

密植園では、樹幹上部しか光が当たらず、すそ枝がハゲ上がり、内部の葉が無く、枝が立ち貧弱な樹となります。さらに、果実肥大や品質が劣り、結果層が上部に集中するため収量が低下し、防除や収穫の作業能率も低下しますので縮間伐が重要となります。また、剪定も実施しましょう。

#### 3)病虫害防除

ミカンハダニは、近年抵抗性獲得が早く、有効な薬剤が少ないので、この時期にきちんと防除しましょう。

ハダニ・カイガラ類      ハーベストオイル      60～80倍

(樹勢の弱った樹には厳寒期の散布は避け、3月の発芽前に散布しましょう。)

### 2.日向夏の管理

#### 1)収穫準備

- ・本格的な収穫が始まる前に園地内の片付け、除草等を実施し、収穫時の作業効率を上げましょう。
- ・階段畑については、のり面の点検を行い、安全に収穫が行えるようにしましょう。
- ・収穫機の点検を実施し、効率的に収穫作業が行えるように準備しましょう。

#### 2)病虫害防除

- ・まもなく収穫期となるので、防除は極力行わないようにします。
- ・防除を実施する場合は、使用基準を厳守して下さい。

※ 農薬の使用については、使用基準（摘要作物、使用回数、使用回数、収穫前使用日数、散布量等）を守って使用してください。

連絡先……果樹農産課 電話 77-2216

## 露地野菜生産者のみなさまへ

毎日の農作業、大変お疲れ様です。春作の作付けがはじまりました。異常気象の中、天気が読めない状態になっています。寒さや乾燥、長雨などいろいろな事態に備えた作付けを行ってください。また、収穫時には梅雨時期になるものもありますので、排水のよい圃場を選び、排水溝を作り、水のはけ口を忘れずに作るようにして下さい。

### <栽培管理について>

#### ・白ネギ・

軟白しにくくなっていますが、こまめに土寄せを行うようにし、軟白部分を多くするように心がけてください。スリップスの食害痕は品質低下の原因となります。

気温が高くなるととうだちしやすくなるため、収穫遅れのないように出荷してください。

#### ・人 参・

収穫・出荷後の貯蔵中での腐敗が大変多いため、収穫を行う場合は、雨上がりや土壌が乾燥していない場合には行わないようにして下さい。発病枯死した葉などはなるべく圃場外にて処理を行って下さい。

#### ・春バレイショ・

種芋は30～40g前後に切り、乾燥させてから播種を行って下さい。播種後の湿害により種芋が腐敗する場合がありますので水はけの良い圃場を選び、必ず排水溝を作り、水がはけるように出口も必ず作るようにして下さい。保温資材やワラなどをマルチの上にかけておくと防寒対策になります。

#### ・水田ゴボウ・

播種が遅れたため、収穫は2月下旬頃を目安としてください。収穫が遅れると、ス入りになりやすくなりますので注意してください。また、出荷後のクレームのなかで、『菌核病』がでますので、収穫時はゴボウを傷つけないように丁寧に取扱ってください。土はなるべく落としてから出荷してください。

#### ・施設人参・

トンネル栽培では生育が不揃いとなりやすいので地温とトンネル内温度を適温に保つようにして下さい。発芽後は、25～28℃で管理し、30℃以上になったら換気を行って下さい。換気の遅れは裂根の原因にもなります。トンネル内での病害虫の発生が見られますので、除草の徹底など予防策を行って下さい。(トンネル内温度25℃前後の多湿条件で発生)

#### ・千切大根・

品質維持のために、できた千切大根は早めに出荷してください。異物混入が問題となっていますので、十分注意してください。異物の主なものは洗い機のブラシ、わら、ひも、木の葉、ビニールシートの破片、髪の毛などです。大根の調整もしっかり行ってください。

#### ・レタス・

レタスは5℃以下で生育停止、0.4℃以下で凍害になります。トンネル栽培をしている圃場では、最低温度が低くなるので、パオパオなどの保温材をトンネル内部に被覆すると凍害を防げます。また、日中は温度が高くなるため、パオパオは除去し、25℃以上にならないように温度管理を行ってください。また、2月下旬頃より気温が高くなってきますので、病害虫の発生に注意し、できるだけ予防的な薬剤散布を行ってください。発生後の防除はレタスの品質低下になります。

### ・ブロッコリー・

1月からの気温が低いため、生育が遅れているため、収穫後の変色が多く発生しています。出荷規格に合わない場合もありますが、収穫遅れによる品質低下を防ぐため、適期の収穫を行ってください。

花蕾の表面が黒っぽくなっているものは収穫後に腐敗します。出荷前に、担当者と相談してください。

### ・加工用ほうれん草・

寒さが続き、生育の伸びが悪い状態ですが、降雨後に気温が上がりだしたら伸びますので、2月下旬頃にはパオパオを除去してください。かけたままにするとベト病が発生しやすくなります。

### ・病害虫対策・

ハウス・トンネル内など、温度が保たれる場所では害虫の発生がみられます。予防策を必ず徹底するようにしてください。

アブラムシ ⇒ シルバーテープの設置（キラキラ光る事で寄せ付けない）

ダニ・スリップス⇒ 葉に付きますが、樹勢が良ければ生育を阻害されることはありません。

かん水ができる圃場であれば、かん水を行う事により発生がおさえられますのでかん水を行って下さい。

コナガ類 ⇒ 粘着シートを使用し、誘引捕殺してください。  
作物に近い位置に設置すると効果的です。

### ＜野菜を作り続けていることによる『連作障害』について＞

土壌中の肥料成分が野菜を作ることで持ち出され、少なくなってしまう、肥料を投入しても土中での分解ができずに作物に必要な養分が吸収できなくなる症状です。

野菜を作っている圃場では、土壌分析を行い、緑肥のすき込みを行うなど土作りを行ってください。  
※土壌分析を行う事により、養分過剰や不足による障害を防ぎます。土壌分析は乾燥した土で分析に2週間ほど時間がかかりますので早めに提出してください。提出先は果樹農産課又は開発センターまで。

※栽培を行うにあたり、生産販売契約書に記載されているものまたは栽培計画の中に記載されている資材については、有機JAS認定の基準に適合しているかの確認を行っていますので、それ以外の資材を使用する場合は資料の提出をお願い致します。

また、収穫出荷前に栽培管理簿の提出をお願いしていますが、産直・直売所に出荷を行う方は果樹農産課へ提出をお願い致します。出荷検討会に持参できるように準備を行ってください。開発センターへ直接提出を行うと管理内容の点検が出来ませんので必ず果樹農産課で提出を行って下さい。

### ＜お知らせ＞

部会検討会を行いました。

1月12日（木）平成23年度 春人参作付検討会

1月26日（木）平成23年度 甘藷作付検討会（赤系・白系）

作付検討会に出席されていない方は、販売契約書の提出を早急をお願いします。

契約作付けに取組みを希望される方は必ず連絡をお願いします。

◎これからの作付検討会開催予定品目～里芋、白ねぎ、生姜

連絡先…果樹農産課 77-2216